

# 塾講師 ランク付け検定

## 昨年スタート、塾選びの参考に

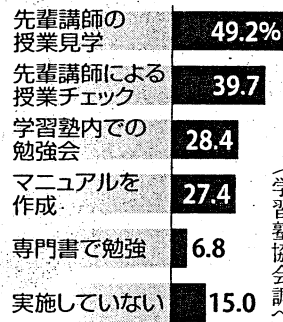
学習塾業界で、検定によって講師の能力を評価しようという動きが進んでいる。『ランク付け』によって講師自身に切磋琢磨を促すとともに、保護者が塾を選ぶ際の参考にすることが目的だ。

検定制度をつくったのは、経済産業省所管の社団法人「全国学習塾協会」(東京都豊島区)。「教室全体のやる気や理解度に応じて適切な指導ができる」レベルが2級。「塾生一人ひとりの反応に目を配りながら、成績

向上のポイントを確実に押さえた指導ができる」と評価されると、1級が与えられる。2級試験は昨年6月に初めて実施され、受験した講師160人のうち138人が合格した。今年からは2級合格者が1級に挑む試験も始まる。2級試験は筆記と実技から成る。「塾生や保護者への適切な振るまい」や「個人情報保護の扱い方」などの基本事項を事前にテキストで学習するなどして、8割以上得点すると実技試験に進める。

## 塾によるアルバイト講師の教育方法

(複数回答(全国学習塾協会調べ))



実技は模擬授業。15分～30分程度ビデオで撮影し、同協会が選んだ3人のベテラン講師が審査員として映像をチェック、36点以上(90点満点)取れば合格という。評価のポイントは「話し方にメリハリがあるか」「塾生の好奇心を刺激しているか」な

ど13項目。塾業界でこうした動きが始まった背景には、公立学校での補習に塾が参加するなど社会的な役割が増していることがある。その反面、塾講師には教員免許取得など資格条件がなく、講師の資質を見極める公的な基準はない。

同協会が2005年2月に塾経営会社380社にアンケートしたところ、全講師のうち、大學生や主婦などアルバイトの割合が57%にも上っていた。入れ替わりも激しく、そうしたアルバイト講師の質を高め、安定的にレベルの高い教育サービスを提供するには、講師個々の能力

を担保する目安が必要との機運が高まった。同協会の稲葉秀雄専務理事は「検定をつくれれば、塾側は1級や2級を持っている講師を優先的に採用し、講師側は指導力向上に励むようになるはず」と話す。昨年の2級試験に講師80人を受験させたある大手進学塾では「将来的には研修の一つに取り入れたい」としている。玉川大の山口栄一教授(教育方法論)は「検定によって講師のレベルが分かれば、子供を通わせる保護者が塾を選びやすくなる。制度がうまく機能するかどうかは、今後の普及活動にかかって」と指摘する。(渡辺光彦)

# くわんがく 塾選び

